

【海外便り】

アメリカでの留学生活

Herbert Irving Comprehensive Cancer Center, Columbia University

益池 靖典（平成 21 年卒）

平成 21 年卒の益池靖典です。私は 2019 年 1 月よりアメリカのペンシルバニア大学で留学生活を始め、ボスの異動に伴い、同年 7 月からはコロンビア大学のがん研究センターで研究を行っています。コロンビア大学はニューヨーク市のマンハッタンにありますが、がん研究センターは中心街から離れていて、一般的なニューヨークのイメージとは違った雰囲気があります。周囲はヒスパニックの人が多く、英語とスペイン語が同じぐらい飛び交っています。家はハドソン川を挟んで対岸にあるニュージャージー州フォートリーという場所でアパートを借りており、シャトルバスで通勤しています。フォートリーは東アジア系の人が比較的多い地域で、日系もしくは韓国系のスーパーで日本の品物も簡単に入手できるので、生活に困らない場所です。

研究については、大学院時代は上部消化管グループで食道癌の研究をしていましたが、こちらでは大腸癌の研究プロジェクトを任せられており、LIN28B というタンパクに着目して大腸癌転移機構を解明する研究を行っています。がん研究センターということで、腫瘍の研究に役立つ設備が整っており、他の研究室から有益な情報をいただくことも多く、充実した研究生活を送れています。日本人の方も多く在籍しており、困った時はよく助け合っています。また、ペンシルバニア大学ではアジア系の研究者はそれほど多くなかったのですが、コロンビア大学には非常にたくさんの中国人研究者が所属して精力的に活動していることにとても驚いています。

留学も残すところ 1 年となりますが、研究をしっかりとまとめ上げて帰国したいと思います。最後になりますが、留学の機会を与えてくださった土岐祐一郎教授と御指導いただいた田中晃司先生にこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。

